

宮古島市の教育を語る市民大会

「教育の日」

本市では、教育に対する市民の関心と理解を一層深めるとともに、家庭、学校及び地域社会の連携の下に市民全体で教育に関する取り組みを推進し、教育の充実と発展を図ろうと毎年2月の第3日曜日を「教育の日」として定めています。

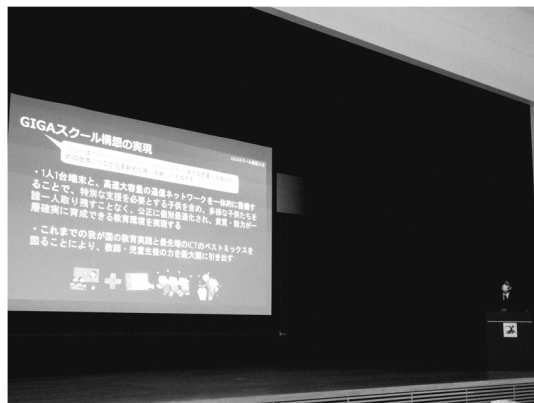
毎年2月の第3日曜日は「教育の日」です。

令和2年度以降、コロナ禍の影響で「教育の日」の催しは表彰式のみとなっておりますが、今年は令和5年2月19日(日)に未来創造センターにおいて「宮古島市の教育を語る市民大会」が開催されました。

みやこ少年少女合唱団の市歌斉唱で幕を開けた大会は、学校教育課の指導主事によるGIGAスクール構想の取り組みについての実践報告、宮古高等学校空手部の空手演舞等が披露され好評を博しました。

「生徒主体の部活動を支えるために～子どもを成長させる大人の条件～」と題して行われたジャーナリストの島沢優子氏の講演は、現在社会的課題となっている部活動のあり方を考えることを通して、子どもを教育する立場としての大人のあるべき姿を問う内容となりました。全国で続発する部活動における指導者による暴力やパワハラ事件について、その背景には指導者自身の不安や「本当の厳しさ」に対する誤解があると語る島沢氏は、科学的見地を示したうえで、大人・子どもの双方が自分の感情と向き合い、子どもに対して問いかけ、傾聴する指導のあり方こそが、子どもの自立や主体的な成長につながると訴えました。

また、講演に聞き入っていた来場者の多くからは、「これからの子ども達の指導に参考にしたい」、「『指導する』ではなく『子どもと向き合う』ことをだいにできるようにしていきたい」といった感想が聞かれ、宮古島市民の部活動や教育に対する関心の高さを感じられ、今後の本市教育の発展が期待できる大会となりました。



教育の日では、教育功労者・模範児童生徒に対する表彰式も行われました。今年の教育功労者・模範児童生徒3名をご紹介します。

教育功労者表彰



文溪堂代理店 平良 静さん

たいら しずか

《選考理由》 平成4年から、毎年の秋に文溪堂本社とともに、市内の各小学校へどんぐりや木の実、木の葉などといった秋に関する教材を提供している。30年にわたる教材の提供は宮古島の小学校教育にとって大きな貢献である。

模範児童生徒表彰

にしめ ゆい
城東中3年 西銘 結衣さん

《選考理由》 何事にも一生懸命に全力を尽くし、自分の可能性への挑戦をし続けています。

学校でも生徒会役員として活動し、学校統合当初からのリーダーとして生徒会に貢献。中学校3年間バレーボール部に所属し、キャプテンとして後輩の指導にも熱意を込めてあたっている。また、「劇団かなやらび」での活動や、地域の老人会で民謡を披露するなど、地域貢献も行っている。

すなかわ りせい
狩俣中1年 砂川 琉聖さん

《選考理由》 学級長としてクラスをまとめ、休みがちなクラスメイトがどうすれば学校に楽しく登校してくれるかを考え、環境を変える工夫を行うことが出来る。

また、何事にも勢力的に取り組み、文化面では多くの表彰を受けている。

★表彰一覧★

- ・第7回「介護福祉のみらい」最優秀賞
- ・第70回全琉小・中・高等学校 図画・作文・書道コンクール 韻文(俳句)部門 優秀賞
- ・第17回宮古島市民総合文化祭「児童・生徒の部」美術部門 市長賞
- ・令和4年度中学生の税についての作文 宮古地区租税教育推進協議会代表幹事賞

教育の日に関連して、児童生徒や一般(高校生含む)から標語・川柳を募集しました。本年度は67点の応募の中から、最優秀作品3点、優秀作品6点が以下のとおり決定いたしました。



標語・川柳入賞者

小学生の部《標語》

認め合い みんなで育む 思いやり
 優秀賞 下地小学校六年 根間萌瑛さん

あいさつは 人がつながる 第一歩
 優秀賞 南小学校六年 西平笑奈さん

てをあげて はっぴようできたよ ドキドキだ
 最優秀賞 西辺小学校一年 仲宗根大翔さん

勉強は 自分を変えてく 第一歩
 優秀賞 狩俣中学校二年 當間凜夏さん

解けた喜び 増すやる気 めぐるページに自信つく
 優秀賞 上野中学校一年 上地博也さん

ペンを持ち 学んで広げれ! 自分の世界
 最優秀賞 狩俣中学校三年 砂川琉聖さん

祖母が言う 過去の学びは 一生の宝
 優秀賞 総合実業高校一年 仲宗根雛希さん

肩並べ 子から学ぶ プログラム
 優秀賞 一般 渡真利麻実子さん

教育は 未来を拓く 道しるべ
 最優秀賞 一般 立津元勇さん

中学生の部《標語》

一般の部《川柳》

郷土の歴史と文化講座

市立図書館では、宮古・沖縄の歴史や文化に関する「郷土の歴史と文化講座」を年に数回開催しています。

令和4年度は、「サンマデモクラシーと下里ラッパ」、「来島100年記念文集に見るネフスキーの世界」というタイトルで2回開催いたしました。

令和5年度も多くの皆様のご参加をお待ちしています。

宮古島市立図書館 郷土の歴史と文化講座

『サンマデモクラシー』と

しもざと けいりょう
下里ラッパ (恵良)



アメリカ統治下の沖縄で起こった『サンマ裁判』。その弁護士をつとめた宮古出身の下里恵良氏について、取材を進めてきた映画『サンマデモクラシー』監督が語ります。

令和4年11月12日(土)

18:30-20:30

市立図書館ブラウジングコーナー

講師: 山里 孫存 氏 (映画『サンマデモクラシー』監督
沖縄テレビ ディレクター)



【講師プロフィール】

1964年、那覇市生まれ。バラエティや、若者に大人気を博した音楽番組『BOOM BOOM』など多数を手がける。沖縄戦のドキュメンタリー『むかしむかし この島で』のほか、映画『岡本太郎の沖縄』『ちむぐりき 菜の花の沖縄日記』ではプロデューサーを務めるなど、報道番組制作や映画製作でも高く評価されている。



問い合わせ: 0980-72-2235 (宮古島市立図書館)

宮古島市立図書館 郷土の歴史と文化講座

来島100年記念文集に見る ネフスキーの世界



令和5年 2月18日(土)

16:00-17:30

会場: 市立図書館ブラウジングコーナー

講師: 宮川 耕次 氏 (2022 ネフスキー記念文集
編纂委員会 代表)

2022年は、ロシアの学者ニコライ・A・ネフスキー(1892-1937)の生誕130年、宮古諸島への初来島から100年の節目でした。言語・民俗だけでなく幅広い視野で宮古やアジアを研究したネフスキーの世界を、彼を偲ぶ有志が集い刊行された記念文集などから解説していきます。

※入場無料

問い合わせ: 0980-72-2235 (宮古島市立図書館)

令和5年度宮古島市奨学生《給付型》募集のおしらせ

募集期間: 令和5年3月1日(水) ~ 令和5年3月31日(金)

申込み資格

市内の県立高等学校の卒業年度にある者で、出願時までの評定平均値が5段階評価が4.3以上であること。経済的理由で修学が困難であると認められること。次年度の大学入学を予定している者であること。

| | |
|-------|---|
| 採用予定数 | 2名 |
| 給付額 | 月額30,000円(年額360,000円) |
| 給付期間 | 令和5年4月から、在学する大学等の履修課程における正規の修業年限 ※ただし、給付決定の期間は1年間を上限とし、年度ごとに審査し、更新するものとします。 |
| 併用 | 貸与型奨学金との併用のみ可 |

※詳細は教育委員会HPをご覧ください。教育総務課(73-1970)までお問い合わせください。



みゅーじあむニュース



上手に縄ないできるかな？

「第5回子ども博物館」開催！！

市総合博物館では、1月29日（日）に令和4年度子ども博物館「第5回講座 縄をなってみよう」を開催しました。

今回は、かつて生活のなかで「必需品」であった縄の役割や昔の人たちの知恵や工夫について学ぶとともに、実際に縄ないに挑戦しました。ススキやアダナス（アダンの気根）など様々な植物の縄ないに悪戦苦闘しながらも諦めずにチャレンジする姿がみられました。

参加した受講生からは「はじめは縄をなうのは簡単かなあと考えていたけど、実際に縄をなうと難しかったです」、「縄をつぎたすときが難しかったですけど、きれいにできてうれしかったです」、「昔のひとたちがどうやって縄をなっていたか知ることができた」などの感想が寄せられ、体験したことで、より理解が深まったと感じました。

子ども博物館講座は毎年4月頃、市内の小学校4年生～6年生を対象に受講生の募集を広報誌や新聞を通して行っております。宮古の歴史や文化、自然について楽しく学びましょう！



現在、博物館では、戦前から本土復帰の頃の思い出について聞き取りを行っています。その中で、特に戦時中に学童疎開を経験された方を探しています。お心当たりのある方や、ご両親からお話を聞いたことのある方がいましたら、ぜひ博物館までご連絡ください。

【問い合わせ先】

TEL：0980-73-0567

mail：museum@city.miyakojima.lg.jp



ホームページも
要チェック！！



※3月休館日

毎週月曜日、21日（春分の日）